



川上氏第2信

中島哲演先生

お便りをありがとうございました。ヒロシマ・ナカサキの原点を大切にみつめつつ、その「コインの裏面」である原発の問題に向き合い、「自身の責任を問う」日々を続けてこられた、その先生の言葉に、新たな敬意を覚えました。特に、責任という言葉の意味に触れて、沖縄の「ひめゆりの塔」を思い出しました。1948年、与那城勇牧師は、ひめゆり学徒隊の遺骨が壕の中に散乱しているのを

宗教者と原発 往復書簡

2

中島 住職 ← 川上 牧師 (福井) (東北)

発見し、「この犠牲の責重苦しい沈黙の中にあり任は、私にある、あなたます。復興の喧騒を帯びにある」と語り、皆でそた沈黙。それは異様な沈ここに納骨堂を建てて吊ったぞうです。フクシマ事故を経てしまった今、私の責任は、何でしょう、中島先生の責任は、何でしょうか。

先生は「事態」を根源的かつ普遍的に究明しつつ何をなすべきかを共に探求したい」と記して下さいました。私は今、どんな事態に立ち至ったのか、まず書き記したいと思います。犠牲の実態を、見つけたいのです。

重苦しい沈黙

今、フクシマ事故による被ばく地は、不気味に

不気味な「事態」進行中

福島で続く震災関連死

「震災関連死者」は全国近、突然死が多いね」とで3331名で、うち福島県は1914名、全体の57%です。

検討も「悪」か

らんやご家族に確認しておられる方々ばかりです。会の態度と、そっくりに見えます。

大丈夫のはず

東京電力によると、今回の原発事故による死者数は「4名」とされている

直近の1年間での震災関連死者は全国で242名を数えますが、うち2

私は支援事業として、原発事故で「放射能禍に不安を覚える親御さんた

証をするまでもなく、原発との関係が言下に即断で否定されるばかり、と

不安が「大丈夫のはずだ」という願いを産み出し、その願いが油断を産み出し、その油断が不安を昂じさせ、そして「大丈夫のはず」という願いが強化される。それが、現在進行している「事態」です。そしてどんな

ます。日本国政府による直近の資料によりますと、「震災による死者・行方不明者・負傷者」の数は全国で2万4618名であり、その内、福島県は1996名、全体の8%でした。他方で、

10名、全体の87%が福島県民です。震災から年月が経ってなお、震災に

関連して、大勢の福島県民が命を落とし続けている

のこと。まるで、その可能性を検討することが

に。それはまるで、大日本帝国が敗れる可能性を

私の周辺の人びとは「最

といたった症状を、お子さ

に。それはまるで、異

上、書き記しました。

おそらく、今、私の責任は、如上の不気味な「事態」を率直にお伝え



川上氏第3信

中島哲演先生

返信を感謝します。原子力災害の現場に立って、「私たちの倫理的責任」という言葉に深い響きを聴き取った思いがします。

怒りの非難も

原子力災害は、私たちを深く切り裂いています。福島県内の仮設住宅や行政の責任者と会いつつ、70名以上の「放射能に不安を覚える親御さん」たちからお話を聞き続ける私自身も、自らの内側が深く引き裂かれる痛みを感じます。

宗教者と原発 往復書簡

4

中島住職 ← 川上牧師 (福井) (東北)

例えば、川内村の人々は「安全性が確認できなかった」とされ「帰村」を目指している。それを聞きし指すことになっていまままに書物にまとめて上梓しました私に、一つ民が東京電力からの賠償を打ち切られました。しかし、山河の除染は進んでいない。結果、幾世代も山林と清流に支えられてきた村の生活者たちは、今、大都会の仮設住宅で、貧困の中に展望を見いだせずに孤立している。

そのことを訴え出ようと自助組織を立ち上げた人々がいます。しかしそれは、ある方々にとって「迷惑」なことでした。そんなことをするから、復興が遅くなるのだと。

こうした痛みが、原子力災害の現場に隠されています。それを見聞きして私自身は、ひたすら引き裂かれてゆく。

「愛」語る聖書

それは困難な教えです。現場に立って敵を愛する時、自分も引き裂か

十字架とは

とができるのではないかと。イエスの十字架とは、つまり、そういうことだったのではないかと。顧みれば、ウラン採掘から核実験まで、原子力(核)災害は世界大に広がり、今「声なき声」はその響き渡る時を沈黙の内に向けています。痛みを引き受ける先に広がる連帯は、世界を包むものとなる。この希望は、小さくない。小さな声を頼りに、愛と救いの業に励むことだ。おそろくそれが、私たちの「倫理的責任」なのだ——こう思い定める機会を得、先生のお便りに感謝している次第です。

「声なき声」連帯に希望

切り裂かれる痛み、内に

い被書を訴えることは、不安を煽ることだ。けしからん」という、怒りと自助組織を立ち上げた人々がいます。しかしそれは、ある方々にとって「迷惑」なことでした。そんなことをするから、復興が遅くなるのだと。

とができるのではないかと。イエスの十字架とは、つまり、そういうことだったのではないかと。顧みれば、ウラン採掘から核実験まで、原子力(核)災害は世界大に広がり、今「声なき声」はその響き渡る時を沈黙の内に向けています。痛みを引き受ける先に広がる連帯は、世界を包むものとなる。この希望は、小さくない。小さな声を頼りに、愛と救いの業に励むことだ。おそろくそれが、私たちの「倫理的責任」なのだ——こう思い定める機会を得、先生のお便りに感謝している次第です。

中島氏第3信

川上直哉様

あくまで「小さくされ、弱くされた」人々の「声なき声」を傾聴され、その人々と強大な力のはざままで自ら「引き裂かれて痛む」キリスト者として、「痛みを引き受ける先に広がる連帯」につとめ、「愛と救いの業に励」まれている貴方に敬服し、感謝しています。また、「倫理的責任」の内実を深めていただいたことに、大いに励まされております。昨年の6月4日付の本

宗教者と原発 往復書簡

中島 住職 (福井) → 川上 牧師 (東北)

5

紙上で、私は「置きざりにされた倫理的責任」として、次のような点を列挙しました。▽原発源地の後世代への巨大な負の遺産▽過疎地に原発群を押し付けてきた大電力消費圏▽累計50万人(現在は60万人)をこえる被曝労働者の犠牲▽放射能災害弱者の子どもたちへの被曝強要▽海外輸出▽全環境・生命の汚染や被曝。そして、「それらへの倫理的責任を『自利利他』に提出しました。今年4月に福井地裁による同機運転差し止めの仮処分決定があっても、その動向にブレーキはかかって

真の自利、真の利他を

慈悲こそ愛と響き合う

現在の「事態」もけっして単純ではありません。高浜原発3・4号機の地元の高浜町では、区長連合会・商工会・観光協会三者が、昨年末に「速やかな再稼働実施」を求める陳情書を町議会に提出しました。今年4月に福井地裁による同機運転差し止めの仮処分決定があっても、その動向にブレーキはかかって

惨禍への前史

先日の知事宛ての県民署名の趣旨には、「原発を太平洋諸国への植民地支配に資する道とも、私たちが関西電力によびかけ、は関西電力によびかけ、訴えてきました。ヒロシマ・ナガサキの惨禍の前史に、アジアのあり悲願であります。前記に列挙した「倫理的責任」をはたしていくためには、利己(エゴイズム)ではなく真の自利を、滅私奉公的な利他(フアシズム)ではなく真の利他を究明し、円満していかねばなりません。

「目に見えるものでも、見えないものでも、遠くに或いは近くに住むものでも、すでに生まれながらも、これから生まれるものでも、一切の生きとし生けるものは幸福であれ」——このブッタの「慈悲」こそ、キリストの「愛」と響き合うはずで

川上氏第4信

中嶋哲演先生

お便りを感謝します。

若狭の現場で、エゴイズムとファシズムの影を看破しておられること、重大なこととして拝読しました。福島県境をはるかに越えて広がる原子力災害の被災地に、私もそれを見ているような気がします。避難中の自治会長が仮設住宅で「福島第一原発はきつともうすぐ再稼働するぞ」と、静かに断言していました。それが現実だ、と。その現実の中で私たち宗教者は何ができるのでしょうか。先生が、ファシズムの

宗教者と原発 往復書簡

6

中嶋住職 ← 川上牧師 (福井) (東北)

先にアジア太平洋諸国へて、どこで響き合うの返される。再稼働を断固の蜜行を、そしてその先か。それは、寺院や教会「爾々と」求めて行く人の中にではなく、ただ、全々は、不安に苦しんでいられることは、示唆的であらねばならぬ。不安だから苦しんでいて苦しむ人々の足元の低みに私たちが触れるその時、はじめて響き合うのではないか。

人間の低みに触れる

ブツダ、キリストに共通

再び招くのではないか。私たちにできることは、何だろうか。

不安に苦しむ

「愛」が、どのようにして

「不安」を口にする人とならぬ。その根にあるその不安。その痛ましき。そこは、その世間が不安に満たされているからです。生活が立ち行くのかすら、不安で仕方がない。だから世界に目をつぶる。そうして失敗が繰り返す。そうして失敗が繰り返す。踏みじられる被害者の

痛む人の傍へ

今、聖書に記録されたイエスの「第一声」が響く気がします。「低みに立って、新しい一歩を踏み出せ。そこに、神の力が伴うから！」と。この声に押し出されて、今日も、痛む人の傍に行こうと思います。

その人が友だちになっ てくれるなら、私はその人の痛みの底に少し触れることでしょうか。その低みにあるはずの力にも、きつと触れる。その時、愛と慈悲が響き合う至福の倍音を、私は聴くのではないか。先生との交信にその予感を覚えて、今日も励もうと思えます。

中島氏第4信

川上直哉様

人間(社会)の「低み」にまで洞察を深められ、「愛と慈悲が響き合う至福の倍音」を聴かれよつとしてゐる——ご返信に感謝いたしております。

ちょうど原爆被爆者と出合った頃に、仏教倫理と慈悲の根源にふれる、次のようなブツタのことはを私は銘記したのでした。

「どの方向に心でさがし求めてみても、自分よりもさらに愛しいものをどこにも見いだせなかつた。」

宗教者と原発 往復書簡

7

中島住職(福井) → 川上牧師(東北)

た。そのように、他人にとつてもそれぞれの自己が愛しいのである。それ故に、自分のために他人を書してはならない」

イエスと律法学者の対話の中にも、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」ということばがありますね。そのことは、「主なるあなたを愛する」ことでもあるのだ、と。

慈悲へ広がり

私たちのいのちの本質やエゴイズムの根元が示されているとともに、その「自分」を相対化する「他人」へのまなざし、愛や慈悲(利他)への

の広がりをもち得ること。その自他の関係をうまく説明して、原発をめぐる

来世代の関係まで包摂されていきます。その自他の関係が痛ましく引き裂かれてきたのが、人類の歴史であり、現代世界の状況でもありません。

来、日本の近代化は欧米諸国から光の側面を多く、巨、そのそも、ブツタの絶大な影の側面(植民地支配や侵略戦争)をも模倣し、1945年の大破局

た軌跡を認めざるを得ません。対的な非暴力・平和主義や生きとし生けるものに対する、自利利他円満の生き方に真の満足を得ることのできる「少欲知足」の道を選択すべきではないでしょうか。

少欲知足の道、選択を

自利利他円満の生き方

広大な領域にかかわるに至った原点も、ここにあり得る訳です。

関西広域圏の電力需要を招いたのではなかったは、2500年前の北イ

のために、原発群を集中してしようか。戦後最大の国策としての原発推進の歴史にも、脱亜入欧(↓族の小国は滅亡させられ

脱亜入米)、文明開化た悲劇があったことを忘れるわけにはいきませ

仏教における「自己一如」の洞察には、ただ自分と他人の関係だけでなく、自他の家族・地域・国・自然環境・過去や未来の増幅し

ゴミを青森県に押し付けられてもいます。このように、被書と加害の関係は入れ子構造をはらんでい

強兵(↓科学技術立国)、富国(↓経済大国化・自ん。一切の生きものに

対して暴力を加えること

なく、一切の生きものいずれをも悩ますことなく「生きるためには、むしろ核文明の危機下にある現代においてこそ、利己的な欲望を自発的に節制し、自利利他円満の生き方に真の満足を得ることのできる「少欲知足」の道を選択すべきではないでしょうか。

(おわり)